令和７年度

シラバス

～第１学年の学習について～

上尾市立上平中学校

第１学年　国語科

１　国語の学習で目指すこと

○　国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

・国語に対する関心・意欲を高める。
・話す力、聞く力、書く力、読む力を育成し、伝え合う力を高める。
・言葉に対する認識を深め言葉の力を付ける。
・物の見方や考え方を養う。

【知識・技能】
伝統的な言語文化に関する事項、言葉の特徴やきまりに関する事項、漢字に関する事項、書写に関する事項を身に付ける。

【話すこと・聞くこと】
①相手意識、目的意識、場面意識をもって話したり、聞いたりする態度を身に付ける。
②目的や場面に応じて的確に話したり、 聞いたりすることで、考えをまとめようとする態度を育てる。

【書くこと】
①構成を考えて、わかりやすく書き表す力を身に付ける。
②「書くこと」を通して生活を豊かにしていこうとする態度を育てる。

【読むこと】
①目的や意図に応じて文章を読み、内容を的確にとらえる力を身に付ける。
②読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	教科書　国語１　（光村図書） 中学書写　（光村図書） 副教材　あかねこ漢字スキル 図解でわかる文法 よくわかる国語の学習１	持ち物	・教科書、ファイル、筆記用具 ・副教材、国語辞典 ・書写の道具 ・授業中指示のあったもの

授業の進め方

① 本時の課題、学習範囲の確認
② 本文の音読（文章教材）　内容の確認、解説（言語教材）
③ 個人や少人数班での読解（文章教材）　問題演習（言語教材）
④ 課題の解決、解説（文章教材）　課題の確認（言語教材）

学習に関する心構え

① 文章教材に取り組むときは、すらすら読めるように予習をしておきましょう。
② 自分の考えを問う場や発表する場がたくさんあります。
③ ワークシートへの記入を大切にしてください。黒板に書かれた内容だけでなく、メモや振り返りを書いて、自分独自のワークシートを作りましょう。
④ 教科の取り組みの一環として作文・短歌・標語等の作品募集に応募することもあります。
⑤ 話合い活動がたくさんあります。積極的に話し合うとともに、相手の話をよく聞いて自分の学習に生かしましょう。
⑥ １学期１回（期末）、２学期２回（中間・期末）、３学期１回（学年末）合計４回の定期試験を行います。試験は総合問題です。各領域の出題比率は学期によって変わります。授業のなかで聞き取りテスト（「話す・聞く」領域）も行います。また、定期テスト以外に、学習状況を確認する小テストがあります。
⑦ 家庭学習も大切にしましょう。一番大切なのは教科書の音読です。教科書や読書用の本、新聞など、どんな文章でもすらすら読めるようにしましょう。次に漢字や語句の練習です。そして、副教材のワークなどの問題を解きましょう。時間に余裕がある人は、市販の問題集に取り組むこともお勧めします。

３　学習内容とねらい

	学習内容（【】内は主たるねらいの観点）
一学期	・朝のリレー【読む】 〈言葉に出会うために〉 ・野原はうたう【読む】 ・声を届ける【話す】 ・書き留める／言葉を調べる【書く】 〈１　学びをひらく〉 ・はじまりの風【読む】 ・情報を聞き取り、要点を伝える【聞く】 ・情報を整理して説明しよう【書く】 ・漢字の組み立てと部首【知識】 〈２　新しい視点で〉 ・ダイコンは大きな根？【読む】 ・ちょっと立ち止まって【読む】 ・情報整理のレッスン　比較・分類【技能】 ・話の構成を工夫しよう【話す】 ・文法への扉１【知識】 〈３　言葉に立ち止まる〉 ・空の詩三篇【読む】 ・比喩で広がる言葉の世界【知識・読む】 ・詩の創作教室【書く】 ・さまざまな表現技法【知識】 〈いつも本はそばに ・読書を楽しむ　本の中の中学生　読書案内　読書コラム　【読む】【知識】 ・書写（硬筆）【知識】
二学期	〈４　心の動き〉 ・大人になれなかった弟たちに……【読む】 ・星の花が降るころに【読む】 ・聞き上手になろう【話す・聞く】 ・項目を立てて書こう【書く】 ・読み手の立場に立つ【書く】 ・方言と共通語【知識】 ・漢字の音訓【知識】 〈５　筋道を立てて〉 ・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ【読む】 ・思考のレッスン１　意見と根拠【知識】 ・根拠を明確にして書こう【書く】 ・文法への扉２【知識】 ・大阿蘇【読む】 〈６　いにしえの心にふれる〉 ・いろは歌【知識】 ・蓬莱の玉の枝【読む】 ・今に生きる言葉【読む】

二学期	〈7　価値を見いだす〉 ・「不便」の価値を見つめ直す【読む】 ・思考のレッスン２　原因と結果 ・話題や展開を捉えて話し合おう【話す】 ・書写（毛筆、書き初め）【知識】
三学期	〈8　自分を見つめる〉 ・少年の日の思い出【読む】 ・二十歳になった日【読む】 ・文法への扉３　単語の性質を見つけよう【知識】 ・構成や描写を工夫して書こう【書く】 ・文法への扉３【知識】 ・漢字の成り立ち【知識】 ・一年間の学びを振り返ろう【書く】【話す】 ・ぼくがここに【読む】

４　学習評価の観点と評価規準等　※全教科において３観点での評価となります。

評価の観点	評価規準・評価方法
①知識・技能	①音声、語句、語彙、文法、漢字などに関する基礎や国語の特質を理解し、知識を身につけることができたか。 ②上記の理解と知識を基に日ごろの言語活動を振り返り、ことばのきまりについて気付くことができたか。 ③楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解し、字形、文字の大きさ、配列・配置を考えて読みやすい字が書けたか。 （評価方法） ・授業の取組みや発言内容 ・ワークシートの記述内容 ・作品の内容 ・小テストや定期テスト
②思考・判断・表現 【話すこと・聞くこと】	①話したり、聞いたりする中で、 自分のものの見方や考え方を深めることができたか。 ②目的や場面に応じ、説得力のある表現の仕方に心がけ話したり聞き取ったりすることができたか。 （評価方法） ・授業中の取組みや発言内容 ・聞き取りテスト ・ワークシートの記述内容
【書くこと】	①たくさんの材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして書くことができたか。 ②論理の展開を工夫して、説得力のある文章を書くことができたか。 （評価方法） ・定期テスト ・ワークシートの記述内容、作文の内容、ICT 機器での入力内容 ・授業中の取組み

【読むこと】	①目的や意図に応じてさまざまな文章を的確に読みとることができたか。 ②書き手の論理の展開の仕方をとらえながら文章を読み取り、内容の理解に役立てることができたか。 ③読むことを通して自分の意見をもつとともに広い範囲から情報を集め、効果的に活用できたか。 （評価方法） ・授業中の取組みや発言内容 ・小テストや定期テスト ・ワークシートの記述内容、ICT 機器での入力内容
③主体的に学習に取組む態度	①積極的に自分の意見や考えを発言できたか。 ②他人の意見をしっかり聞き、自分の考えを深めることができたか ③授業の中で、進んで話し合ったり、工夫して書いたり、読書ができたか。 ④国語の学習に真剣に取り組み生活に生かしていこうとしたか。 （評価方法） ・授業中の取組み方や発表 ・ワークシートの記述内容 ・話し合い活動への取組み方 ・振り返りシートによる自己評価 ・自学時間での取り組みの様子

第１学年　社会科

１　社会科の学習で目指すこと

本校の社会科では、「社会的事象について気付いたり、まとめたりして表現する力」の育成を目指しています。そのために次の２つの活動を積極的に授業の中に取り入れることを取り組んでいる。

①様々な資料（史料）から特徴をつかもうとする活動。

②互いに意見を言い（聞き）、それを土台に考える活動。

これらの活動をベースにして、積極的に社会的事象に関心を持ち、意欲的に考え、表現する力をつける。また、「資料（史料）に真剣に取り組むこと。」「教えあったり、伝えあったりして学びを高めること。」「学びの成果を発表し、互いに受け止め認め合うこと。」を目指していく。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	・教科書　新しい社会歴史（東京書籍） 新しい社会地理（東京書籍） 中学社会科地図（帝国書院） ・副教材　歴史資料集　地理資料集　ワーク	持ち物	・＜歴史＞ 教科書、資料集、ノート、ワーク ＜地理＞ ・教科書、地図帳、資料集、ノート、ワーク

授業の進め方
①本時のテーマを把握する。 ②個人、グループで社会的事象について、調べたり、話し合ったりする。 ③調べたり、話し合ったことをまとめたり、発表したりする。 ④教師の説明を聞き、要点を把握する。 ※４～６時間程度を一単元として、まとめや確認をする。
学習に関する心構え
①授業の前日に、教科書を読むなどの予習をすると授業がよりわかるようになります。 ②授業のあとは、ノートを見返し、学んだことを復習するようにしましょう。ワークや問題などを解いておくのも良いでしょう。 ③わからないことは、教科書や資料集・地図帳などを使って、自分で調べる力をつけましょう。 ④ニュースや新聞などをチェックして、社会的事象に関心を持ちましょう。 ⑤定期テスト前は、次の１～４を参考にして勉強しましょう。 １．テスト範囲の教科書を読む　２．ノートの要点をまとめる ３．重要用語は説明できるようになろう　４．ワークや問題集は繰り返してやろう

３　学習内容とねらい

	学習内容	学習のねらい
1学期	＜地理的分野＞ 第１編　世界と日本の姿 　第１章　世界の姿	・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解させる。 ・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察、表現させる。 ・世界の地域構成について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。
	第２章　日本の姿	・日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観させ、理解させる。 ・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目させて多面的・多角的に考察、表現させる。 ・日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。
	第２編　世界のさまざまな地域 　第１章　世界各地の人々の生活と環境	・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解させる。 ・世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。その際、世界の主な宗教の分布についても理解させる。 ・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目させて多面的・多角的に考察、表現させる。 ・世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	＜歴史的分野＞ 第１章　歴史へのとびら 　１節　歴史をとらえる見方・考え方 　２節　身近な地域の歴史	・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解させる。 ・資料から歴史に関わる情報を読みとったり、年表などにまとめたりする技能を身に付けさせる。 ・具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けさせる。 ・時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し、表現させる。

		・比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・私たちと歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 ・自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。

2学期	＜歴史的分野＞ 第１章　歴史へのとびら 　２節　身近な地域の歴史 第２章　古代までの日本 　１節　世界の古代文明と宗教のおこり 　２節　日本列島の誕生と大陸との交流 　３節　古代国家の歩みと東アジア世界	・世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解させる。 ・日本列島における農耕の広まりと、生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷（政権）による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。 ・律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解させる。 ・仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解させる。 ・古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における国家形成、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。
	＜地理的分野＞ 第２編　世界のさまざまな地域 　第２章　世界の諸地域 　　１節　アジア州 　　２節　ヨーロッパ州 　　３節　アフリカ州 　　４節　北アメリカ州 　　５節　南アメリカ州	・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解させる。 ・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解させる。 ・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南ア

		メリカ州、オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。 ・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。

3学期	第２編　世界のさまざまな地域 第２章　世界の諸地域 ６節　オセアニア州 ＜歴史的分野＞ 第３章　中世の日本 １節　武士の政権の確立 ２節　ユーラシア大陸の動きと武士の政治の展開	・鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解させる。 ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。 ・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。 ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。

４　学習評価の観点と評価規準等　※今年度から全教科において３観点での評価となります。

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能 ・地理的・歴史的事象に関する基礎的な知識を身につけているか。 ・資料から必要な情報を選択、活用したりまとめたりすることができるか。 ・資料を読み取り適切な判断をしたり、考察したりすることができるか。	（評価方法） ・定期テストの知識技能の問題 ・小テストなど
②　思考・判断・表現 ・知識や資料を組み合わせ、多面的、多角的に考察することができるか。 ・自分の考えを整理して論理的に説明・発表できるか。	（評価方法） ・課題（振り返りシート）　・発表 ・定期テストの思考判断表現の問題 ・調べる力、まとめる力
③　主体的に学習に取り組む態度 ・社会的事象全般について関心を持ち、意欲的に学習に取り組めているか。	（評価方法） ・授業の取組　・発表 ・提出物（振り返りシート）・宿題　・ノート

第１学年　数学科

１　数学科の学習で目指すこと

授業内での課題や問題に対して、既習内容との関連性を見つけ、課題解決や問題解決に向けて率先して自分から考えることを目指す。その中で、計算、関数、図形などへの理解を深め、数学的な思考を身につけるとともに、新たな課題を発見する能力を育てる。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	・教科書　未来へ広がる数学１（啓林館） ・ワーク ・プリント	持ち物	・筆記用具　・ノート ・定規　・はさみ ・コンパス　・のり

授業の進め方

○ 学習課題を的確に把握し、 課題に対して前向きに取り組む。
　・疑問に思ったことや、分からないことを解決する努力をする。
　・学習課題に対して多面的に観たり考えたりする力をつける。
○ 自分の良いところを伸ばし、苦手なところにも挑戦する。
　・分かったこと・課題を解決できたことに自信を持つ。

学習に関する心構え

○ チャイムが鳴るまでに授業の準備を終え、着席して待つ。また、授業の準備を忘れない。
○ 板書されたこと・気づいたことなどをノートに工夫してまとめておく。
○ 先生の話や友だちの発表をしっかり聞く。
○ ノート・ワークなどの提出物は，提出期限を守る。
《家庭学習》　○ 予習・復習をしっかりする。
　　○ 宿題・提出物は途中式をかいて、しっかり仕上げる。

３　学習内容とねらい

	学習内容	学習のねらい
１学期	１章　正負の数	○正負の数の加法、減法の計算の仕方がわかる。 ○正負の数の乗除や四則の混じった計算ができる。 ○正負の数の計算を利用して、身近な問題を解決すること。
	２章　文字と式	○文字の便利さがわかり、いろいろな数量を文字を用いて表すことができる。 ○文字の役割の違いや文字計算の手順がわかる。

2学期	3章　方程式 4章　比例と反比例 5章　平面図形	○等式の性質を用いて方程式を解くことができる。 ○いろいろな問題を方程式を活用して、解決することができる。 ○ともなって変わる２つの量から比例・反比例する量を式で表すことができる。 ○比例や反比例の関係を利用して、身の回りの問題を解決することができる。 ○定規やコンパスを用いて、基本的な作図をすることができる。 ○おうぎ形のこの長さや面積が中心角に比例することを理解する。

3学期	6章　空間図形 7章　データの分析と活用 1年間のまとめ	○多面体や正多面体について理解できる。 ○見取り図や展開図、投影図を書くことができる。 ○立体の表面積、体積を求めることができる。 ○資料を整理し活用することの意味と度数分布表、ヒストグラムを理解すること。 ○相対度数、累積度数・代表値の意味とその用い方を理解すること

４　学習評価の観点と評価規準等　※今年度から全教科において３観点での評価となります。

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能	• 単元ごとの用語・計算の決まり・定理等を正しく理解できたか。 • 数学の基本的な技能を高めることができたか。 （評価方法） ・小テストや定期試験 ・授業内での課題プリント ・発表内容
②　思考・判断・表現	• 学習事項を使って課題を解決することができたか。 • 常によりよい解決方法を考え課題に取り組んでいたか。 （評価方法） ・小テストや定期試験 ・授業内での課題プリント ・課題レポート ・発表内容
③　主体的に学習に取り組む態度	• 意欲的に学習することができたか。 • 与えられた課題に対して、粘り強く取り組んでいるか。 （評価方法） ・授業内での課題プリント ・課題レポート ・ワークなどの提出物の内容 ・授業中の様子

第１学年　理科

１　理科の学習で目指すこと

自然の事物・現象に進んでかかわり、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	・教科書「自然の探求　中学校理科 1」 ・資料集 ・ワーク ・授業用プリント（随時配布） ・単元テスト（テスト時プリント配布）	持ち物	・教科書　・ノート（Ａ４サイズ） ・資料集　・ファイル ・のり　・クロームブック ・保護メガネ（実験時のみ）

授業の進め方
①　自然の事象に関連した学習内容を知る。 ②　自然の事象における基礎的な知識を身につける。 ③　見通しをもった観察・実験を通して、自然の事象について調べる技能を身につけるとともに、科学的に考え、それを表現する。 ④　学習を見通しをもって振り返り、自分自身の学習の仕方を調整しながら、次の授業に備える。
学習に関する心構え
①　学習する範囲の教科書を読み予習・復習を行う。 ②　教科書やノートで学習を振り返り、適宜ワークなどの練習問題等を行い、知識を定着させる。 ③　自分自身の学習を見通しをもって振り返り、良い面や課題点を明らかにし、次の学習に生かす。 ④　本、テレビ、インターネットなどを通して、日頃から自然の事象に関心をもち科学的に考えようとする。

３　学習内容とねらい

	学習内容	学習のねらい
１学期	＜いろいろな生物と その共通点＞ ・１章　生物の観察と分類 ・２章　植物の体の共通点と相違点 ・３章　動物の体の共通点と相違点 ・４章　生物の分類 ＜身の回りの物質＞ ・１章　いろいろな物質とその見分け方 ・２章　気体の性質	・身近な生物についての観察、実験などを通して、次の事項を身につける。 ①　いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類の仕方、生物の体の共通点と相違点を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ②　身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。 ・身のまわりの物質についての観察、実験などを通して、次の事項を身につける。 ①　身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、物質のすがた、水溶液、状態変化を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ②　身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現する。

2学期	・３章　水溶液の性質 ・４章　物質の状態変化 ＜光・音・力＞ ・１章　光の性質 ・２章 音の性質 ・３章 力のはたらき	・身近な物理現象についての観察、実験などを通して、次の事項を身につける。 ①　身近な物理現象を日常生活や社会と関連づけながら、光と音、力のはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ②　身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズのはたらき、音の性質、力のはたらきの規則性や関係性を見いだして表現する。

3学期	＜大地の成り立ちと変化＞ ・序章 ・１章 大地の歴史と地層 ・２章　火山活動と火成岩 ・３章　地震と大地の変化 ・４章　大地の躍動と恵み	・大地の成り立ちと変化についての観察、実験などを通して、次の事項を身につける。 ①　大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、身近な地形や地層、岩石の観察、地層の重なりと過去の様子、火山と地震、自然の恵みと火山災害・地震災害について理解すると ともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ②　大地の成り立ちと変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現する。

４　学習評価の観点と評価規準等　※３観点での評価となります。

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能	●自然の事象に対しての知識を身につけている。 ●観察や実験における技能を身につけている。 （評価方法） ・単元テストや定期試験 ・観察や実験への取り組みのレポート ・授業中の発言やノートの記述内容
②　思考・判断・表現	●自然の事象や実験結果を知識･技能を活用して分析して解釈することで、そこから分かる規則性や関係性を見い出し、適切に表現している。 （評価方法） ・単元テストや定期試験　・観察、実験レポートの考察 ・授業中の発表　・小グループでの話し合い活動
③　主体的に学習に取り組む態度	●自然に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 （評価方法） ・授業中の発表　・ノートの記述内容 ・観察、実験への取り組み　・観察、実験レポート ・振り返りによる自己評価

第1学年　外国語科

外国語科でめざすこと
・既習事項を運用し、聞き手や読み手を意識して自分の思いや考えを即興で語ったり書いたりすることができる生徒の育成。 ・基礎的、基本的な英語力の定着 ・英語を積極的に使い、楽しんでコミュニケーションをとろうとする態度の育成 ・総合的な英語力「聞く」「書く」「読む」「話す（発表・やりとり）」の育成

１年生の学習でめざすこと（具体的目標）	
読むこと	・教科書本文等まとまりのある英文の概要を素早く読み取ることができる。
書くこと	・間違いを恐れずに、主語と動詞を意識して文章を書こうとすることができる。 ・聞いたり読んだりしたことについて３文以上意見や感想を書くことができる。
聞くこと	・話し手の伝えたい内容を正確に理解できるということ。 ・まとまった英文を聞き、キーワードを聞き取り大まかな内容を理解できる。
話すこと	・失敗を恐れず積極的に自分の考えや思いを伝えようとすることができる。 ・既習事項を運用し、聞き手を意識して自分の思いや考えを即興で語ることができる。

使用教材	教科書 ・SUNSHINE ENGLISH COURSE１（開隆堂） 副教材 ・英語マスタノート ・Active ・単元テスト（テスト時配布）	持ち物等	全員 ・教科書　・ノート　・ファイル ・New Active Phonics 持っている人 ・英和辞書（和英は必要ではない）
学習の進め方・心構え	〇単語力を高める。 「見る」「読む」「書く」等を繰り返す。　ノートに書いて満足しないように。 〇文法を理解する。 「授業で理解する」→「重要表現の例文を１つ覚える」→「問題を解く」→「間違いを見直す」 〇理解力（読解力・聞き取る力）を高める。 「読む（意味がわかる）」→「できる限り速く読む」　日本語で考えずとも理解できるようになるまで。 〇表現力（話す力・書く力）を高める。 「S（主語）V（動詞）を意識し、学んだ単語や文法を用いて話す・書く」回数を増やす。 自分だけでは適切な英文か確認できないので、先生に確認する。 授業でも家庭学習でも英語をなるべく多く使用する。 ☆その他 ・教科書の本文を音読・暗唱・筆写する。英語の歌を歌う。 ※「読める（意味がわかる）」→「すらすらと読める」→「問題を解く」「書く」の順番		

☆英語は実技教科です。体育や美術、音楽や技術家庭と一緒で、少しのコツと慣れ（練習）が大事です。机の上でプリントやワークを解くことよりも、まずは声に出して学んだ英文を“読める”ようにすることが大事です！苦手な人程音読練習をがんばろう。読めるようになってから書く練習に移るようにして下さい。また、実技と同じように言語学習は完璧にはなりません。繰り返し“特訓”することで向上していきます。「～ができない」と“引き算”の考え方ではなく、「～ができるようになった」と“足し算”の考え方で学習していきましょう。

学習計画	
学期	単元計画
1学期	Program1 「友だちを作ろう」 ・be 動詞・where Program2 「1-B の生徒たち」 ・一般動詞や複数形 Program3 「タレントショーを開こう」 ・can Program4 「Let’s enjoy Japanese Food.」 ・This /That ・Who
2学期	・Program5 「Pajama Day」 ・三人称・単数・現在形 Program6 「The Way to School」 ・主格、所有格、目的格 Program7 「Research on Australia」 ・There is (are) ・How Program8 「Happy New Year!」 ・現在進行形
3学期	Program9 「A Trip to Finland」 ・一般動詞の過去形 Program10 「Grandma Baba’s Warming Ideas!」 ・be 動詞の過去形

評価について		
評価規準		評価の方法
知識・技能	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を理解しているか。 また、その知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けているか。	・単語テスト ・Listening テスト ・読解問題 ・パフォーマンステスト ・定期テスト ・単元テスト ・Writing テスト
思考・判断・表現	目的、場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合えるか。 また、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合えるか。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。 また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか。	

第１学年　音楽科

１　音楽科の学習で目指すこと

・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
・音楽の表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。
・多様な音楽に興味・関心をもち、幅広く鑑賞する能力を育てる。

２　学習教材及び授業の進め方

教材 使用	・中学生の音楽１ ・中学生の器楽 ・コーラス　フェスティバル	持ち物	・アルトリコーダー ・音楽ファイル ・筆記用具

授業の進め方

① 歌唱活動
はじめに歌う時の姿勢や体の使い方を練習して体をほぐします。その後、発声練習を行うことで歌の基礎、基本を身につけていきます。
② 器楽活動
リコーダーでは、基本的な指使いを身につけるため、音階練習などを行ってから、曲の練習をします。
③ 鑑賞活動
曲に対してどのように感じたのかを音楽の用語を用いて、言葉にしていきます。感じ取ったことを自分の言葉で表現出来るようにします。
④ 創作活動
リズム遊びからリズム創作にチャレンジしますので、工夫する気持ちを持ち、自分だけの音楽を作っていきましょう。

学習に関する心構え

① 忘れ物は授業開始前に先生に申し出るようにしましょう。
② 集中して授業に取り組みましょう。
③ 演奏中は、真剣に演奏に取り組みましょう。
④ 音楽が苦手でも、まずはやろうとしましょう。
⑤ みんなで１つの音楽を作り上げる楽しみを味わいましょう。

３　学習内容とねらい

	学習内容	学習のねらい
１学期	・オリエンテーション ・歌唱活動 「校歌、夏の日の贈りもの」など ・鑑賞活動「春～第１楽章～」 ・器楽活動 アルトリコーダー導入 「喜びの歌」	・音楽の授業への心構えを作る。 ・歌うことへの楽しみや喜びを味わいながら、音楽学習への関心意欲を持たせる。 ・リズムやハーモニーの動きを感じながら表現できるようにする。 ・曲想の変化と表現される情景との関わりを考えて聴く。 ・アルトリコーダーの基礎的な奏法を理解して演奏する。

2学期	・歌唱活動「学年合唱・自由曲」など ・鑑賞活動「魔王」 ・器楽活動「オーラリー」 ・創作活動	・混声三部合唱の響きを楽しみ、合唱表現の能力を伸張させる。また、旋律の重なり方の効果を感じ取りながら合唱能力を高める。 ・詩と音楽が一体となった美しさを感じ取って表現したり鑑賞する能力を育成する。 ・低音域の運指や息の入れ方のコツをつかんで演奏する。 ・アルトリコーダーを用いて、イメージをもって簡単な旋律創作をする。

3学期	・歌唱活動「赤とんぼ・卒業式歌」など ・器楽活動「さくらさくら」など ・鑑賞活動「アジアの諸民族の音楽、六段の調」	・旋律の動き方を生かした歌い方を工夫して歌う。 ・歌詞の内容を考え、心を込めて演奏する。 ・日本の伝統楽器である箏の基礎的な奏法を理解し、音の響きを味わって演奏する。 ・アジアの諸民族の地域の音楽や日本の音楽の特徴を理解して、その良さを味わって鑑賞する。

4　学習評価の観点と評価規準等　※今年度から全教科において３観点での評価となります。

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能	・曲想や音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表現している。 （評価方法） ・授業中の観察 ・実技テスト ・筆記テスト
②　思考・判断・表現	・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 （評価方法） ・ワークシート ・授業中の観察 ・筆記テスト
③　主体的に学習に取り組む態度	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 （評価方法） ・授業中の観察 ・ワークシート

第１学年　美術科

１　美術科の学習で目指すこと

①自然や身近なものなどのよさや美しさに対する関心を持つ心を育てる。
②感性や想像力を働かせ、自然や身近なものを観察し、良さや美しさを感じ取る力を身につける。
③自主的に表現意図に合う多様な表現方法を工夫し、美しく表す力を身につける。
④自然物、美術作品や生活の中の造形などに自主的に親しむ心を育てる。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	・教科書　日本文教出版　美術Ⅰ	持ち物	・色鉛筆、アクリルガッシュ、鉛筆（２Ｂ）、雑巾、他、題材によって異なる ・服装について 半袖・ハーフパンツ・ジャージ

授業の進め方
①　美術係は、学習カードを配布する。各自忘れ物をカードに記入する。 ②　授業で必要な用具を準備する。 ③　本時の学習目標を学習カードに記入する。 ④　学習目標に沿って制作する。 ⑤　５～10 分前に道具の片付けをして本時の振り返りを学習カードに記入する。
学習に関する心構え
①　入退室や、始業終業のあいさつをしっかりと行う。 ②　話を良く聞き、本時の目標を理解する。 ③　授業準備を徹底する。（用具がなかったり、借り物であったりしては、自分の力は出しきれません。） ④　意欲的に制作する。（制作する姿勢が作品に表れます。本当によい作品は真剣な態度から生まれます。） ⑤　道具を大切に使う。 ⑥　作品などの提出期限を守る。 ⑦　美術の教科書を参考に題材の資料集めを自主的にこころがける。

３　学習内容とねらい

	学習内容	学習のねらい
１学期	・人間っておもしろい ・ドローイング入門 （鉛筆で描く） ・色彩の学習 （色彩の基本・仕組み） ・素敵な動物をつくろう（彫刻） （材料に命を吹き込む）	・作品鑑賞を行い、構図，色彩や人物の表情や視線などから、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考える。 ・鉛筆の表現について学び、制作に活かすことが出来る。 身の回りにあるモチーフの形の特徴をとらえて効果的に表現できる。 ・色彩の基礎的な語句や性質を理解し、その機能的な生かし方を理解する。効果的な配色の技能を身につける。 ・材料の形や色彩，質感などから動物のイメージを広げて主題を生み出し，材料の組み合わせ方や用具を工夫して立体で表す。 ・意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身につけ、造形感覚を働かせる。また、安全な道具の扱い方について学習する。

2学期	・つなげて広がる模様の世界 ・絵文字のデザイン ・屏風，美のしかけ ・墨と水が描く世界	・目的や条件に合わせ構成を工夫するなど、デザインを学ぶ。 ・考えやイメージを伝え合うことの楽しさを知り、相手の気持ちを考えてデザインできるようにする。 ・明朝体とゴシック体の特徴を知り、描けるようにする。 ・それぞれの表現方法の良さを味わい、自分の価値意識を持って鑑賞し合うことができるようにする。 ・屏風の表現のよさや美しさ，折ることで生まれる立体感や見え方の変化を感じ取るなどして見方や感じ方を広げる。 ・水の量や筆の動かし方、線の勢いなど、水墨画の表現について知る。

3学期	・見つめて 　感じて、描いて （林檎の素描） ・モダンテクニック	・対象物の質感や特徴、美しさを基に主題を生み出し表現方法を工夫して絵に表現する。明暗から配色を考え、明暗表現の工夫をする。 ・全体から立体的表現の工夫をする。 ・モダンテクニックの技法について理解を深め、表現の幅を広げる。

4　学習評価の観点と評価規準等　※今年度から全教科において３観点での評価となります。

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能   ②　思考・判断・表現

第１学年　保健体育科

１　保健体育科の学習で目指すこと

「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」という目標を達成するために、まず「学ぶ意欲」を高めていく。そのことで自ら進んで活動し、個人（グループ）の課題（目標）を持って授業に取り組めるようになると考える。そして、課題の解決をめざし、考え工夫する資質や能力を身につけ、健康・体力を向上させる。

【体育分野】

・年間を通して主運動に応じた準備運動を自分で考え、仲間と共に話し合って実施する。
・見学時は見学者カードを記入し、積極的な授業参加を図る。
・先生の指示をよく守り、安全に留意して運動する。
・種目の評価基準や記録表などをつけて、意識を高める。
・コーチングや実技の撮影・振り返り等を行い、運動を行うコツをつかみ技能向上を目指す。
・種目の特性やルールを理解する。（体育理論含む）

【保健分野】

・授業で自分の身体や環境問題等について学習し、ワークを活用することにより深みを持たせる。
・フォームスを用いた単元テストを実施することにより、保健分野と体育理論の定着をはかる。

２　学習教材及び授業の進め方

使用教材	・教科書　中学保健体育　（大修館書店） ・資料集　中学体育実技　埼玉県版（大修館書店） ・ワーク　中学保健体育の学習（大修館書店）	持ち物	・中学体育実技　・中学保健教科書 ・体育ファイル　・保健体育ワーク ・筆記用具 ・水筒

授業の進め方

授業の進め方
②　授業で必要な用具を用意する。
②　体育委員は授業が始まる前に号令をかけ、整列して待つ。見学、欠席の報告をする。
③　あいさつをして、準備運動をする。
服装について１　服装は半袖・ハーフパンツ。（運動するのにふさわしい着方をすること）
２　気温に応じた服装を可能とする。ただし、安全に配慮する。

※まず、授業を進めるにあたって必要なこと（準備・片付け・初歩的なルールなど）を覚える。基本的なこと（動作や技術、戦術など）を練習する。さらに先生や友達のアドバイスを参考にしながら、自分の課題や目標を解決していくために、自ら進んで取り組み、考え・工夫したりしながら協力して練習や試合、記録計測をしていく。

学習に関する心構え
②　自分の能力を精いっぱい発揮し、最後まで粘り強く取り組む。 ②日頃から健康管理に努め、授業には積極的に参加する。 ③指示をよく聞いて仲間と協力して活動（準備、片付け、練習など）し、周りの安全を考えて取り組む。 ④効果的で安全な活動をするため、基本的な事柄（服装や身なりを整えたり、運動種目規則を守るなど）に注意して取り組む。 ⑤服装は気温に応じた服装を自分で選択して着用する。 　※体調不良等、特別な理由がある場合はさくら連絡網で連絡する。 ⑥保健体育の教科書・図解体育・ワーク・ファイルは教室のロッカーにまとめておき、いつでも使えるようにする。

３　学習内容とねらい

学期ごとの学習内容とねらい（体育分野）

	学習すること	学習のねらい
１学期	○体つくり 　・体ほぐしの運動 ○陸上競技 　・短距離、リレー ○水泳 　・平泳ぎ、クロール、自由種目	・自己の体に関心を持ち、体力や生活に適した課題を持って、心と体をほぐす運動を行う。 ・今できる技についての、自分の課題を克服し、新たな技へ挑戦できる技能を身につけさせる。 ・自己の能力や適正を知り、運動種目を選択して、自らの記録へ挑戦できる技能を身につけさせる。 ・自己の能力や適正を知り、運動種目を選択して、自らの記録へ挑戦できる技能を身につけさせる。
２学期	○体つくり 　・体力を高める運動 ○武道 　・剣道 ○ダンス ○ハンドボール 　バスケットボール	・自己の体に関心を持ち、体力や生活に適した課題を持って運動を行い、体力を高める意欲を養う。 ・武道における伝統的な行動様式を身に付けさせるとともに、対人的な技能を身に付けさせる。 ・集団的スポーツの意義を理解させ、自分の得意な技能を習得させ、チームに貢献させていく。 ・対人的な技能を確実なものとし、練習や試合に応用できるようにさせる。
３学期	○バドミントン 　ソフトテニス	・集団的スポーツの意義を理解させ、自分の得意な技能を習得させ、チームに貢献させていく。

学習内容とねらい（保健分野）

	学習すること	学習のねらい
1学期	・性機能の成熟 ・性とどう向き合うか ・心の発達(１)-知的機能と情意機能の発達- ・心の発達(２)-社会性の発達-	•中学生期も含まれる思春期には性機能が成熟し、外見や内面の変化が誰にでもあることを捉えさせ、お互いに尊重していくことを理解させる。 ・どこからでも性情報が入る現代社会において、どのような意識で性と向き合っていくかを考えさせる。 ・中学生期は自分だけでなく、他者のことを含めた考え方が出来てくる発達段階ということを捉えさせて、他者との関わり方を理解させる。
2学期	・自己形成 ・欲求不満やストレスへの対処	・理想の自分を考えさせるとともに、長所と短所を理解させることで、自己肯定感を味わわせるとともに成長への意欲を高める。 ・心と体には相関関係があることを理解させる。また、自分の欲求通りにならないときに、どのような心身状態になるのか、それに対してどのように対処するのかを考えさせる。
3学期	・健康的な生活と病気の予防 ・体の発育・発達 ・呼吸器・循環器の発達	・健康の大切さと「生活の質」への意識を高める ・体の成長過程を捉えて、現在の自己を知る。 ・中学生期は全身持久力の発達が顕著であることを捉え、運動の大切さを理解させる。

４　学習評価の観点と評価規準等　※今年度から全教科において３観点での評価となります。

評価の観点	評価規準・評価方法
①　知識・技能	・各種目の基本的な技能が身についているか ・各単元における特性、技の名称や行い方を理解しているか （評価方法） ・技能テスト・観察・単元テスト
②　思考・判断・表現	•自己の課題を見つけられているか、自己の課題に応じた学習方法を選択できているか （評価方法） ・学習カード ・レポート ・単元テスト
③　主体的に学習に取り組む態度	•各単元の楽しさや喜びを味わおうと公正や協力を意識して積極的に取り組むとともに、健康・安全に留意して取り組めているか （評価方法） ・観察・学習カード

【第１学年　技術・家庭科】

技術・家庭科の学習でめざすこと

○　技術・家庭科は技術分野・家庭分野の２つから成り立っています。いずれも生活に必要な基礎的知識と技能を身に付けることにより、進んで生活を便利にしようと工夫し、豊かな生活を創造する能力を身につけ、実生活に生かしていける実践的な態度の育成を目指します。

・生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造しようとする実践的な態度の養う

学習教材及び授業の進め方について

使用教材	教科書　技術・家庭（開隆堂） 副教材　木材加工学習セット	持ち物	・教科書・ファイル・筆記用具 ・ネームペン・作図セット ・裁縫セット　など
授業の進め方	**《授業について》** ・プリント、ICT 機器（スクールタクト）を使用して学習を進めます。 ・製作実習を行います。刃物や針、釘、発熱する物などを使用します。 ・班単位でグループ活動することがあります。 ・２時間続きの授業になります。 **《定期テストについて》** ２学期１回（中間）、３学期１回（学年末）合計２回の定期試験を行います。試験は総合問題です。各領域の出題比率は学期によって変わります。 **《家庭学習について》** 授業中に学習したことを定着させるために、積極的に家庭で実践するようにしましょう。		
学習上の注意	・積極的に授業に取り組みましょう。 ・授業準備は休み時間にしましょう。 ・提出物の期限は必ず守り、忘れ物をしないようにしましょう。 ・黒板に書かれた内容をプリントに写すだけでなく、メモや振り返りなどを書いてまとめましょう。 ・グループ学習では、自分の考え方を知ると同時に、他人がどのように考えているかを学習しましょう。		

学習評価の観点と評価規準等

観点	学習評価の観点・規準（主なもの）	評価方法
知識・技能	①技術・家庭に関する用語を覚えたか。 ②技術・家庭に関する用語の説明ができるか。 ③しくみや工程を理解し、作業を効率良く進めることができる。 ④様々な技術を習得し、それらを活用することができる。	作業 作品 定期テスト（知識・技能部分）
思考・判断・表現	①技術について適切に評価できたか。 ②学んだ技術を生活の中で活用することができるようになったか。 ③製作に必要な道具を適切に選択できるか。 ④学び得たことから、よりよいものになるように改善及び修正を考えることができる。	プリント 作品 定期テスト（思考・判断力・表現力部分）
主体的に学習に取り組む態度	①進んで技術に関わり、主体的に理解し、技能を身につけようとしているか。 ②自分の新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとしている。 ③提出物は抜けが無く、期限を守って提出できたか。	授業態度 プリント 作品・定期テスト 定期テスト（関心・意欲部分） 提出物

	学習内容（予定）
一学期	・私の成長と家族 ・衣生活 ・生活を豊かにするものの製作（布を用いた製作）
二学期	・実技テスト ・住生活 ・情報について ・コンピュータ実習
三学期	・材料と加工 ・木材加工実習
上記の学習を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」について学習します。	